

平成27年度 グリーンプラン推進校報告書



特定非営利活動法人 エドがわエコセンター

1. グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、えどがわエコセンターと協働し、園・学校における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターからは各種情報の他、資材などの経費を学校に提供し、学校での環境学習が充実するよう支援をします。一年間環境学習に取り組んだ後、取り組み内容を報告書などで広くPRしていきます。

グリーンプラン推進校のメリット

- 環境学習に役立つ豊富な情報が入手できます。
- 簡易な手続きで経費の支援がえられます。(各校5万円以内)
- 他校の活動状況を詳しく知ることができます。

条 件

- 対象は江戸川区内の幼稚園・小学校・中学校です。
- 中間報告、最終報告の提出や報告会に参加をしていただきます。
- 学校訪問により、活動の様子を見させていただきます。
- エコセンターからの出前授業を一回以上実施していただきます。
- グリーンプラン推進校の2年連続のお申し込みはできません。

2. えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政やNPO/NGOと連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』をめざしています。地球温暖化防止キャンペーンやごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、さまざまな事業を展開しています。

えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒にいろいろな活動に取り組んでいます

- 地球温暖化防止
「みどりのカーテン」推進事業、「省エネ・節電チャレンジ」事業など
- 資源循環
生ごみリサイクル講習会、おもちゃの病院、マイ箸包み作り教室など
- 自然環境保全
水辺環境調査、東なぎさクリーン作戦、公園での樹木観察など
- 仲間づくり
〈環境教育〉
21世紀子ども放課後環境教育、出前授業、子ども環境教室など
〈人材育成〉
おきがる環境講座
□企業と連携した「エコカンパニーえどがわ」の推進

3. 平成27年度グリーンプラン推進校

		中間報告	最終報告
・ 小学校	小松川小学校	P. 5	P. 31
	小松川第二小学校	7	33
	平井東小学校	9	35
	松江小学校	11	37
	西一之江小学校	13	39
	宇喜田小学校	15	41
	下鎌田東小学校	17	43
	篠崎第五小学校	19	45
	南篠崎小学校	21	47
	上一色小学校	23	49
	中小岩小学校	25	51
・ 中学校	上一色中学校	27	53

中 間 報 告

平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	小松川小学校	対象学年と人数	2年生 64名
活動名	小松川グリーンプラン		
指導者	学内指導者：川島 薫 教諭（2年1組担任） 南雲 正博 教諭（2年2組担任） 学外支援者：講師 大和地 弘一（えどがわエコセンター副理事長） 講師 水上 泰輔（えどがわエコセンター理事） グループ指導者 笹原喜代司 松村光博 唐澤政美 武藤明治 内山安子		

目標

- ①児童に、エコとはどんなことかの気づきを与え、日常生活でエコにやさしいことは、どんなことかを考え、理解を深める。
- ②飼育栽培委員会を中心に、全校で植物を育て、校内の緑の環境を守り、自然を大切に
する心を育む。

進捗状況

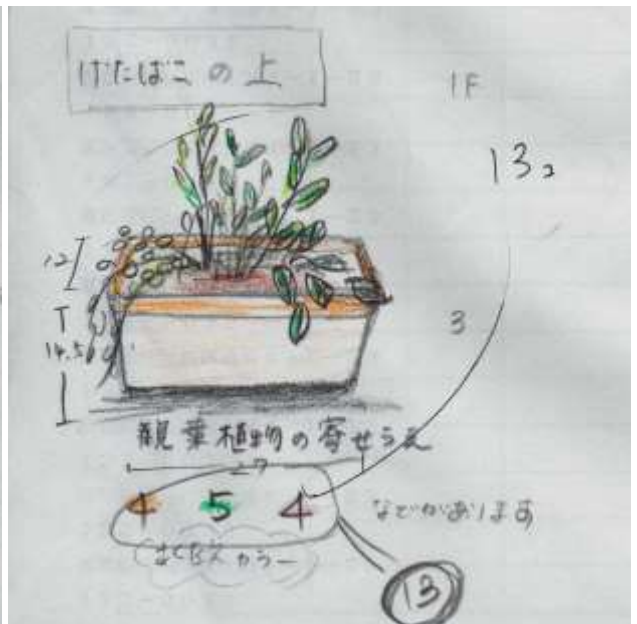
- 6月22日（月）えどがわエコセンター講師による環境教育プログラムの実施（2年生）
エコとはどんなことかの気づきを与え、日常生活でエコにやさしいことは、
どんなことかを考え、理解を深める学習を行う。
- 6月29日（月）飼育栽培委員会において、全校で校内の緑の環境を守る取り組みについて話し合う。
- 8月27日（木）～10月 話し合いをもとに、校内緑化に向けた準備を行う。
プランター、
- 10月19日（月）飼育栽培委員会による、ポトス、アイビー等の植え込みを行う。
（グリーンプラン活動状況視察）
- 10月20日（火）～ 全校による、校内の緑の環境保持運動の推進

活動写真等

6月22日 環境教育プログラムの実施（2年） 講師：えどがわエコセンター



6月29日 飼育栽培委員会による校内の緑の環境を守る活動の完成予想図



平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	小松川第二小学校	対象学年と人数	全学年
活動名	二小松グリーンプラン		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：保護者、農園ボランティア、PTA役員、えどがわエコセンター、子ども未来館 (役割分担)		

目標

- 栽培活動を通して、勤労の大切さや自然の素晴らしさを知り、自然や環境に関心を持ち、自然や環境を守ろうとする態度を育てる。
- 「にこにこ農園(旧校舍跡地)」を活用し、農園ボランティアの協力のもと、栽培活動を通して地域の方々への感謝の気持ちを持ち、積極的に自然とかかわろうとする態度と実践力を育てる。
- 「にこにこ農園」での生き物の観察を通し、生命尊重に対する意識を高める。

進捗状況

- 農園ボランティアや地域の方と協力して、にこにこ農園での栽培活動を行っている。
- 栽培委員会が中心になり、校庭の花壇の植え替えや栽培を行っている。
- 「にこにこ農園」で、2年生がサツマイモの栽培、収穫を行った。
- えどがわエコセンター環境教育プログラムを活用して、「子ども未来館」の方々の指導のもと、「にこにこ農園」の敷地内の沼地で、「身近な自然にふれてみよう・生きものさがし」の出前授業を行った。

< サツマイモ掘り >



< 出前授業 >



< 栽培委員会 >



平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	平井東小学校	対象学年と人数	3,4年生 100名
活動名	荒川学習「干潟の生き物を調べよう」		
指導者	学内指導者：佐竹 陽子（3年1組）、夏坂 恵（3年2組）、清水 茜（4年1組） 学外支援者：高木 嘉雄（前子ども未来館館長）、星野 由実（下平井水辺の楽校）		

目標

◎荒川の自然に親しみ、荒川を中心とした環境について学ぶことにより、環境保全のために行動しようとする心を育てる。

「干潟の生き物を調べよう」

- ・荒川の生物の採集・観察・記録を通して、生物への関心を高め、調べ学習へつなげる。
- ・干潟のしくみや生物（のつながり）による水の浄化について学ぶ。
- ・干潟の生き物に適した環境を知り、自分たちが水辺の環境保全のためにできることを考え、実践に、向かう力を培う。

進捗状況

【荒川学習】

○5/20（1～4校時）「干潟の生物学習」

○6/15（1～4校時）「干潟の生物学習」

下平井水辺の楽校付近の干潟の生物を捕り、捕った生き物をグループで観察し合う。観察カードを用いて、生き物について分かったことや気付いたことを話し合いながら記入する。その後、高木先生から荒川の生き物について解説してもらおう。生き物にとってよい環境とは？私たち人間ができることは何か？を3・4年生なりに考えた学習であった。2学期に「草原の生物学習」があり、干潟とは違った生き物について学習する予定である。

高学年では、「クリーンエイド」の学習から、荒川付近にはどのようなごみがあり、そのごみが生き物に与える影響を考える学習を行う予定である。

学校名

平井東小学校

活動写真等



平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	江戸川区立松江小学校	対象学年と人数	全校児童 570人
活動名	緑で守ろう！地球温暖化防止レンジャー		
指導者	学内指導者：吉澤 弘子 各担任 学外支援者： (役割分担)		

目標

緑と水の豊かな校舎づくりをし、子供たちの環境への意識を高める

進捗状況

○教室のバルコニーに大型プランターを設置し、朝顔やゴーヤなどを育てている。

1 学期末の朝会で6年生児童より、全校に地球温暖化防止についてや緑のカーテンの効果などを発表し、各クラスで植物を育てる意識を高めた。2 学期になり、植物が枯れ始めたので、秋から冬に向けた取り組みを考えている。

○ピオトープ作りを進めている。

校庭にある観察池に稲を植え、金魚を飼っている。プール清掃で捕まえたヤゴを観察池に放すと、見事羽化した。今後は葦なども植えてさらに生き物と植物が住みよい環境を整えていこうとしている。

活動写真等

緑のカーテン作り



ビオトープ作り



平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	西一之江小学校	対象学年と人数	全学年696名
活動名	西一之江 エコ・グリーンプラン		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：エコセンター		

目標

- ① 植物を栽培することを通して、その役割と素晴らしさを学び、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ② エコ活動を通して、環境保全についてを学び、リサイクルに対する意識を高める。

進捗状況

- 校庭の花壇では、理科委員会の児童が中心となり、野菜（ゴーヤ・ヘチマ→緑のカーテン）の栽培をしている。植物の世話を通して、花や実の様子に興味・関心をもつことができた。また、緑のカーテンを通して、その効果を学ぶにあたり、地球温暖化について知るきっかけを得た。
- エコ委員会の児童が中心となり、校内で出るゴミの分別がきちんとできているか、消灯ができているか、水の出っぱなしがないかを確認する活動を行った。このことを通して、児童の環境を守ろうとする意識を高めることができた。

活動写真等

理科委員会の取り組み



エコ委員会の取り組み



平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	宇喜田小学校	対象学年と人数	第3学年 97名
活動名	「グリーンカーテンプログラム～それって、ほんとにすずしくなるの？」		
指導者	学内指導者： 飯野、田島、内田、上原、五十嵐 学外支援者： (役割分担)		

目標

つる科の植物を育て、グリーンカーテンを作り、カーテンのうちの温度を下げるとともに植物を育てる中で、自然を大切にしようとする態度を育てる。

進捗状況

6月初旬、ヘチマとゴーヤの種をまき、育て始めた。6月下旬、教室のベランダにネットを設置し、つるをからませ、グリーンカーテン作りに入った。7月に入り、少しずつカーテンらしくなり始め、子供も植物の成長を楽しみながら、水やり等を行った。夏休みは下記水泳教室や学習教室に参加した子供が水やりを行い、枯らすことなく順調に育てることができた。

今後は、9月より、理科で学習した温度計を使い、グリーンカーテンの内外の温度を調べ、違いがあるか確認し、調べたことをまとめていく。

活動写真等

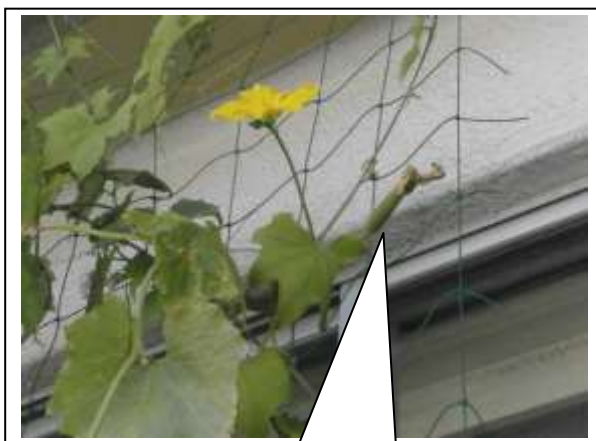


水やりは朝の日課になりました。

みるみる大きくなり、見上げるほどに成長しました。



夏休みになり、ゴーヤは実を



夏休みも水やりをしました。

一方のヘチマも身をつけ始めました。



8月17日現在の様子

平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	下鎌田東小学校	対象学年と人数	5学年 89名
活動名	一人一鉢菊作り		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：PTA職員（菊委員の保護者）		

目標

- ◎一人一鉢の菊作りに全校で取り組み、植物の成長に関心をもたせる。また、命の大切さや自然を大切に
する思いやりの心を育てる。
- ◎5年生が主体となり、活動を進めることで、高学年としての自覚をもたせる。また、6年生への尊敬の
気持ちや下級生を思いやる心を育てる。

進捗状況

- ◎5年生は、中心となって活動することで植物を育てる大変さを知り、また責任をもって活動する意義を
認識することができてきている。※台風の接近に伴い、菊を避難させる経験もした。
- ◎菊を育てるために、PTAの方々にお世話になり、保護者に感謝する気持ちを育むことができてきた。
- ◎夏休み中は、各家庭で自分の菊の世話をし、2学期からまた学校で世話を再開している。
- ◎登校すると、担当学年がランドセルを背負ったまま菊に水やりをしてから教室に入る。5年生はリーダ
ーとして交替で全体の水やりを見守り、他学年の水やりの後で、休んだ子など、水をあげられなかった
菊に水をあげてから教室に入る。

活動写真等



<菊の鉢上げを前に
PTAの方に説明を受ける5年生>



<5年生がリーダーとして
菊の鉢上げを行う>



<全校児童による水やり>

平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	篠崎第五小学校	対象学年と人数	全校	387名
活動名	裏庭を活用した環境教育			
指導者	学内指導者：全教職員 学内支援者：佐々木 文代、小宮 義徳（用務主事） 他 保護者ボランティア （役割分担）			

目標

- ・自然豊かな裏庭の水田や畑で栽培活動を行うことにより、自然と触れ合う。
- ・米作りや野菜、花等を種、苗から育てて、世話をし、収穫する活動を通して、生命を慈しみ、大切にす
る心情を養う。
- ・栽培活動が多くの方々の協力によって支えられていることを知り、感謝の気持ちをもつ。

進捗状況

4月 農園の整備（草取り、土づくり、肥料散布）

5月～ 各学年の栽培活動

1年 アサガオ

2年 ミニトマト、サツマイモ

3年 ヒマワリ、ホウセンカ

4年 ゴーヤ、ヘチマ、

5年 イネ（米）

6年 ジャガイモ

随時草取り

学校名

篠崎第五小学校

活動写真等



1年生の草取り



ミニトマトの観察（2年生）



しろかき（5年）



水田



たけのこほり（6年）



たけのこ

平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	江戸川区立南篠崎小学校	対象学年と人数	全児童 573名
活動名	笑顔いっぱい 緑いっぱい 南篠崎小学校		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：ハッピー・グリーン（学校応援団） （役割分担）		

目標

- 学校農園、学年花壇、田を計画的に活用した体験的な活動を通して、生命尊重と食物を大切にする態度を育てる。
- 学校農園を使った、小松菜の栽培活動（3年生）、小麦の収穫、うどん作り（2年生）、サツマイモの収穫、サツマイモのつるを使ったリース作り（1年生）などの自然体験学習を多く行う中で、豊かな心情を育てる。

進捗状況

- 栽培状況
 - 1年生 朝顔、サツマイモ
 - 2年生 小麦の収穫、ミニトマト
 - 3年生 オクラ、ホウセンカ、小松菜（予定）
 - 4年生 ツルレイシ、ヘチマ
 - 5年生 イネ、インゲン、朝顔
 - 6年生 ジャガイモ
- グリーンカーテンとして、校庭側の職員室、保健室、少人数学習室前の窓に、ツルレイシ、ヘチマ、朝顔の3種類を栽培してきた。夏季休業中の期間に、2階部分の電気の配管までつるが成長し、大きな実や種を収穫することができた。
- 用務主事による花壇の手入れ
- 2年生の小麦の収穫とうどん作り（9/25）

活動写真等



5年生の田植え体験

9月中旬には、稲刈りを行いました。脱穀した後のお米は、家庭科の調理実習で使います。



3年生の植物の観察

まだまだ背丈が低いホウセンカ、ヒマワリですが、成長の変化が見られました。



ヘチマ、ツルレイシ、朝顔のグリーンカーテン

3種類すべて大きく成長し、きれいな花を咲かせ、大きな実をつけることができました。



2年生の小麦の脱穀

脱穀された小麦は、うどん作りの時に使われます。

平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	江戸川区立上一色小学校	対象学年と人数 全学年 85名
活動名	笑顔いっぱい 夢いっぱい	
指導者	学内指導者：副校長（涉外）、上月 達也（校内代表）、全教職員 学外支援者：高橋 廣（河川敷活用委員会代表）、秋元 勝明（学校応援団代表） 石川 武敬（新中川環境を良くする会会長）、業者ほか	

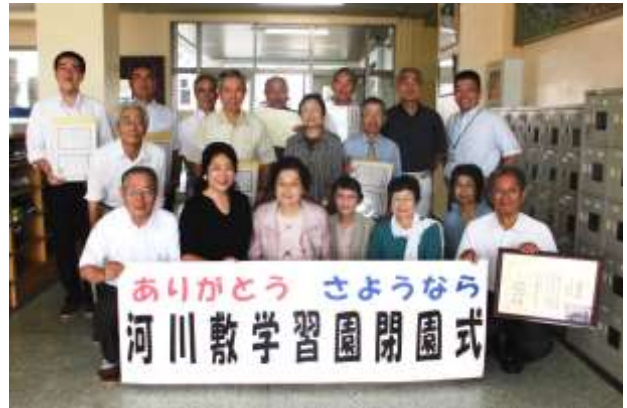
目標

- 1 理科・生活科・総合的な学習の時間の学習園や観察池として、河川敷を整備し児童の教育活動を行う。
- 2 学校・保護者・地域が連携して、児童を通しての親睦を図る。
- 3 地域住民の憩いの場として利用できるように、環境整備に努める。

進捗状況

- ① 平成13年から続いた新中川河川敷学習園ですが、河川敷護岸工事が始まるため、この8月をもって閉園となります。7月16日には、今までの感謝を込めた【ありがとう さようなら 河川敷閉園式】を行いました。河川敷学習園の発案者である第12代校長中村圓校長先生はじめ歴代の各町会会長や学校応援団ボランティア・新中川河川敷環境をよくする会の皆様をお招きし、感謝の会を行いました。皆さん、今までありがとうございました。（護岸工事後は芝生の広場となりますが、アジサイロードとしても活躍する予定です。）
- ② 昨年度は開校60周年を記念して、『コスモスいっぱいプロジェクト』を企画しました。夏休み明けから取り組んだ活動でしたが、秋には見事なコスモスを咲かせ、児童・保護者・地域・来賓の皆様とお祝いできました。
- ③ 今年の春は、菜の花・キンセンカに始まり、百日草の種も蒔きました。全校生が手分けして、種を蒔く深さや間隔などをボランティアの皆様にご教いただきました。また、畑作りや植えた後の毎月の草取りなども地域や保護者の方と行いました。この夏の河川敷には、ランタナ・マーガレット・ヒマワリ・百日草、そして昨年秋のコスモスの子どもなど賑わっています。
- ④ 河川敷は、地域の憩いの場としても活躍しています。お花見・散歩コース・夕涼みなど地域の方々に、親しまれています。

① ありがとう さようなら 河川敷閉園式



② 開校 60 周年記念コスモスいっぱいプロジェクト



③ 最後の河川敷・花壇のひまわり



④ 地域とのふれあい・憩いの場



平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	江戸川区立中小岩小学校	対象学年と人数	全学年 375名
活動名	中小岩小の環境学習		
指導者	学内指導者： 全教職員 学外支援者： えどがわエコセンター		

目標

- 学校における環境保全活動の推進
- 児童・家庭・地域の環境保全活動への理解の推進
 - ・全学年における環境学習の実施

進捗状況

- 4月 年間計画の作成
 - ・全学年における環境学習の実施
 - ・環境委員会による、年間を通じた、井戸水利用、省エネの呼びかけ等の環境保全活動
 - ・全児童による、節電、節水、雨水ダムを使った花の水やり等の省エネによる環境保全活動
 - ・教職員、PTA による、花植え、壁面緑化等の環境保全活動
- 5月 こどもエコクラブへの登録
江戸川区広報番組「えどがわエコセンター」への出演
- 6月 5年生 環境学習 環境教育プログラム
「食べ物から環境を知ろう」
- 7月 1年生 環境学習 環境教育プログラム
「ゼッタイ！！エコガンダー」
2年生 環境学習 環境教育プログラム
「E☆カプセル」
3年生 環境学習 環境教育プログラム
「身近な生き物にふれてみよう」
PTA 主催
「なかこいわ・エコフェスティバル」

学校名

江戸川区立中小岩小学校

活動写真等

各学年における環境学習



1年生「ゼッタイ！！エコガンダー」



2年生「E☆カプセル」



3年生「身近な生き物にふれてみよう」



5年生「食べ物から環境を知ろう」

日常的な環境保全活動



毎週の全校朝会での省エネ活動の呼びかけ



環境委員会による井戸の水汲みと水やり

平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	江戸川区立上一色中学校	対象学年と人数	生徒会及びボランティア
活動名	「新しいことが発見でき、喜びが味わえ、通いたくなる学校」		
指導者	学内指導者：大越龍二教諭 松尾陽介教諭 三村薫教諭 岡本正一用務主事 学外支援者：菅原一之（学校応援団コーディネーター） 他学校応援団の皆様 （役割分担）		

目標

生徒一人一人にとって「新しいことが発見でき、喜びが味わえ、通いたくなる学校」
「花いっぱい運動」

進捗状況

2年前に、グリーンプラン推進校に指定していただき、当時の「花いっぱい運動」を継続しています。サルビア及びポチュラカの花を植え、トマト・キュウリ・ナスを育てました。

そして今年度、再び指定していただき、さらに新しい試みを開始しました。それは、アクアポニックスという魚と植物の循環型生態系に試み、実行しております。

現在、魚と植物の排出・吸収のバランスの拮抗を探るために試行錯誤を重ねています。

学校名

上一色中学校

活動写真等



ナス・トマト・キュウリを植えています



ナス



トマト



キュウリ



ポーチュラカ



アクアポニックス
魚と植物の循環型生態

最 終 報 告

学校名	小松川小学校	対象学年と人数	全学年
活動名	小松川グリーンプラン		
指導者	学内指導者： 全教職員 学外支援者：講師 大和地 弘一（えどがわエコセンター副理事長） 講師 水上 泰輔（えどがわエコセンター理事） グループ指導者 笹原喜代司 松村光博 唐澤政美 武藤明治 内山安子		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	1.情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 ④授業当日の出張指導 ⑤学習資料・資材の提供 6.その他（ 教諭による授業 ）		

目標

- ・ 2年生の環境学習において、エコとはどんなことかの気づきを与え、日常生活でエコにやさしいことは、どんなことかを考え、理解を深める。
- ・ 飼育栽培委員会を中心に、全校で植物を育て、緑の環境を守り、自然を大切にする心を育む。
- ・ エコ委員会を中心に、校内でできるリサイクル運動について興味を持ち、実践する力を育む。

成果

- ・ えどがわエコセンター講師による環境教育プログラムを実施（2年生）し、エコとはどんなことかの気づきを与え、日常生活においてもエコにやさしいことは、どんなことかを考え、行動できるようになってきた。
- ・ 飼育栽培委員会の話し合いをもとに、校内緑化に向けての取り組みを行うことができた。中央玄関にポトス、アイビー等の植え込みを行い、自然を大切にする心を育んだ。各学級にプランターを用意し、全校による校内の緑の環境保持運動を推進した。
- ・ ポスターや児童集会での発表を通して、エコに関する興味関心を児童に持たせるとともに、紙のリサイクルやごみの分別、節水、節電についての実践力を育てることができた。

感想・課題等

- ・ えどがわエコセンター環境教育プログラムによる出前授業を実施することにより、児童の興味関心を高めながら、学年の発達段階に応じた環境学習を行うことができた。また、教員の環境教育に対する意識付けも図ることができた。今年度は2年生のみの実施だったが、環境学習の年間計画に各学年が環境教育プログラムを取り入れ、卒業するまでに幅広く学習が進められるようにする。
- ・ 全児童が毎日使う中央玄関の緑化を、飼育栽培委員会を中心に進めることで、自発的に水やりを行う姿が見られ、進んで自然を大切にしようとする心を育むことができた。

6月22日 環境教育プログラムの実施(2年) 講師:えどがわエコセンター



飼育栽培委員会を中心とした校内の緑の環境を守る活動



学校名	小松川第二小学校	対象学年と人数	全学年
活動名	二小松グリーンプラン		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：保護者、農園ボランティア、PTA役員、えどがわエコセンター、子ども未来館 (役割分担)		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	①情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 ④授業当日の出張指導 5.学習資料・資材の提供 ⑥その他(教諭による授業)		

目標

- 栽培活動を通して、勤労の大切さや自然の素晴らしさを知り、自然や環境に関心を持ち、自然や環境を守ろうとする態度を育てる。
- 「にこにこ農園(旧校舎跡地)」を活用し、農園ボランティアの協力のもと、栽培活動を通して地域の方々への感謝の気持ちを持ち、積極的に自然とかかわろうとする態度と実践力を育てる。
- 「にこにこ農園」での生き物の観察を通し、生命尊重に対する意識を高める。

成果

- 農園ボランティアや地域の方と協力して、にこにこ農園での栽培活動を行うことで、野菜や花の成長に興味を持ち、愛情をもって育てることができた。
- 栽培委員会が中心になり、校庭の花壇の植え替えや栽培を行い、一年間を通して様々な植物に親しむことができた。
- 校内の花壇の整備が進み、児童が四季の変化を感じるようになってきた。
- 栽培委員会の活動とリンクすることで、活動日以外も自分で苗を植えた花壇を日頃から意識して手入れするようになった。
- 「にこにこ農園」で、2年生がサツマイモの栽培、収穫を行うことで土に親しみ、自然を身近に感じ、大切に作る気持ちが高まった。
- えどがわエコセンター環境教育プログラムを活用して、「子ども未来館」の方々の指導のもと、「にこにこ農園」の敷地内の沼地で、「身近な自然にふれてみよう・生きものさがし」の出前授業を行った。昆虫などの生き物が苦手な児童も、この取り組みをきっかけに楽しそうに触れ合う姿が見られた。

感想・課題等

- 校内だけでなく、旧校舎跡地を栽培活動や生き物の観察に最大限に活用できることが素晴らしいと感じた。全校児童がかかわるようにしているが、特定の学年の活用に偏る傾向もみられる。生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しなどを検討していきたい。

活動報告（活動写真）



「サツマイモが見えてきたぞ！」



「僕のサツマイモ、大きいでしょ！」



「植物はまず土づくりから」



「きれいな花を咲かせてね」



「どんな生き物がいるのかな？」



「気持ちを合わせて真ん中に虫を追い込もう」



「今年も立派な大根に育ったね」



「晩御飯は大根料理かな？」

学校名	平井東小学校	対象学年と人数	全学年 322名
活動名	荒川環境学習		
指導者	学内指導者：伊澤朱実 菅家麻里子 佐藤万希子 水野恵市 夏坂恵 佐竹陽子 清水茜 五十嵐真弓 山田直人 幾島美香 根本広輔 佐藤顕太郎 藤田由美子 志村竜良 益子和樹 奥野まどか 学外支援者：下平井水辺の楽校 星野由実さん 高木嘉雄さん		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	1.情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 4.授業当日の出張指導 ⑤.学習資料・資材の提供 ⑥.その他(教諭による授業)		

目標

- 荒川の生き物の採集・観察・記録を通して、生き物への関心を高め、調べ学習へつなげる。
- 生息環境の違い、生物のつながり、生物の生きる知恵(擬態、保護色など)に気付くことができる。
- 荒川のゴミを拾い、どのようなゴミが多いかを調べ、そこから生き物に与える影響を考える。また、どうしたらゴミが減らせるか考えることができる。

成果

- 1, 2年…荒川に住む生き物を取り、どのような生き物がいるか話し合ったり、ゲームやクイズなどをして楽しみながら学ぶことができた。
- 3・4年…荒川の干潟や草原の生き物を取り、とった生き物の特徴を話し合ったり、観察してカードに書き表したりすることができた。また、生き物同士の関わりを知ることもできた。
- 5年…4年生と共に、クリーンエイドを行った。様々な種類のごみを拾い、そのごみが荒川に与える影響を考えることができた。たくさんのごみを拾い、これから自分たちができることを考えるよい機会となった。
- 6年…荒川の水質調査をし、上・中・下流によって水質が違ふこと、また、水質の違いから分かることを話し合い、考えをまとめることができた。

感想・課題等

今年度も下平井水辺の楽校の星野さんの支援を受けて、荒川学習を進めることができた。授業前には、必ず打ち合わせを行い、ねらいや安全面についても話し合ってきた。学習内容も各学年の発達段階に応じたものであり、荒川の生き物や環境について考えるなど意欲的に学習することができた。しかし、考えたことやまとめたことを発信する機会が少なく、各学年の学習内容が伝わらず、系統立てた学習が見えにくかった。より充実した学習にするため、今後は学習したことを発信するなどの事後学習にも力を入れていく必要がある。



学校名	江戸川区立松江小学校	対象学年と人数	全校児童 570人
活動名	緑で守ろう！地球温暖化防止レンジャー		
指導者	学内指導者：吉澤 弘子 各担任 学外支援者： (役割分担)		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	1.情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 4.授業当日の出張指導 5.学習資料・資材の提供 6.その他(教諭による授業)		

目標

緑と水の豊かな校舎づくりをし、子供たちの環境への意識を高める

成果

○教室のバルコニーに大型プランターを設置し、朝顔やゴーヤなどを育てることができた

1 学期末の朝会で6年生児童より、全校に地球温暖化防止についての説明や緑のカーテンの効果などを発表し、各クラスで植物を育てる意識を高めた。2 学期になり、植物が枯れ始めたので、春に向けた植物を植え始め、来年度に向けた準備を始めることができた。

○ビオトープ作りを進めることができた

校庭にある観察池に稲を植え、金魚を飼い始めた。プール清掃で捕まえたヤゴを観察池に放すと、見事羽化した。冬になり、稲は枯れてしまったが、児童にとって生き物や植物が生息している場所であるという認識が高まってきており、休み時間などビオトープの周りに集まって生物を観察している様子が見られる。今後は葦なども植えてさらに生き物と植物が住みよい環境を整えていこうとしている。

感想・課題等

- ・今年度グリーンプラン推進校となったことで、児童が学習したことを生かしてエコ活動についての啓発をしたり、「こどもエコクラブ」の活動にもすすんで取り組む児童が出てきたりし、学校全体での環境に対する意識が高まってきた。
- ・ビオトープやグリーンカーテンに取り組んだことで、児童の地球温暖化への理解が高まったように思う。
- ・今年度始まったばかりであるので、来年度以降も継続して環境保全に対する意識と行動を高めていけるように指導する必要がある。

活動報告（活動写真）

緑のカーテン作り



ビオトープ作り



学校名	西一之江小学校	対象学年と人数	全学年696名
活動名	西一之江 エコ・グリーンプラン		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：エコセンター (役割分担)		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	①情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 4.授業当日の出張指導 5.学習資料・資材の提供 6.その他(教諭による授業)		

目標

- ① 植物を栽培することを通して、その役割と素晴らしさを学び、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ② エコ活動を通して、環境保全についてを学び、リサイクルに対する意識を高める。

成果

- 校庭の花壇では、理科委員会の児童が中心となり、野菜(ゴーヤ・ヘチマ→緑のカーテン、キャベツ)の栽培をした。植物の世話を通して、花や実の様子に興味・関心をもつことができた。また、緑のカーテンを通して、その効果を学ぶにあたり、地球温暖化について知るきっかけを得た。
- エコ委員会の児童が中心となり、校内で出るゴミの分別がきちんとできているか、消灯ができていないか、水の出っぱなしがないかを確認する活動を行った。ゴミの分別を徹底させるため、「もやすごみ」「もやさないごみ」「リサイクルごみ」のラベルを作成し、各教室のゴミ箱に貼る活動を行った。このことを通して、児童の環境を守ろうとする意識を高めることができた。

感想・課題等

- 植物の種類を増やすことができた。
- 栽培委員会の活動として緑のグリーンカーテン作りを行うことで、該当児童に対して植物の世話や生態への興味関心を高めることができた。しかし、全校児童にグリーンプラン推進校という取り組みを今一つ意識づけることができなかった。
- 様々なエコ活動を通して、児童のリサイクルや自然に対する意識を高めることができた。
- 今後は、外部の方と連携した環境学習も考えていきたい。

理科委員会の取り組み



緑のカーテンができました。



ツルレイシ用の棚を作成しました。



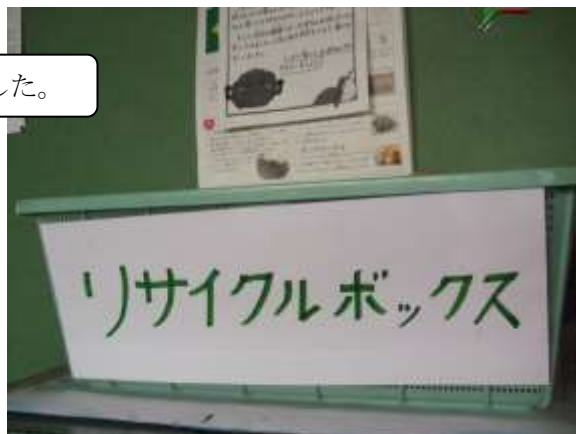
3年生理科用のキャベツを栽培しています。



10月に種を蒔いた小松菜が育ちました。

エコ委員会の取り組み

各教室のゴミ箱にラベルを貼りました。



学校名	宇喜田小学校	対象学年と人数	3年 96名
活動名	グリーンカーテンプロジェクト～それって、ほんとにすずしくなるの？		
指導者	学内指導者： 飯野 田島 内田 上原 五十嵐 学外支援者： (役割分担)		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	1.情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 4.授業当日の出張指導 5.学習資料・資材の提供 ⑥.その他 (教諭による授業)		

目標

つる科の植物を育て、グリーンカーテンを作り、カーテンの内の温度を下げるとともに、植物を育てる中で、自然を大切にしようとする態度を育てる。

成果

- グリーンカーテンが太陽の光を遮り、室内を涼しくすることが分かった。
- ヘチマやツルレイシの水やりなどの世話を通して、自然を大切にしようとする態度が育った。
- 外の気温と室内の気温を計る実験を通し、グリーンカーテンが温度を下げるのに有効だと分かった。

感想・課題等

- ・学習を通しての振り返りで、児童は「家でも試したい。」「他の種類のつる科の植物で試したい。」「おじいちゃん家のグリーンカーテンで温度の差をもう一度、調べてみたい。」など、グリーンカーテンへの興味、関心が高まりました。来年以降、自宅などで今回学習したことを生かして、取り組めるとよい。
- 今年は夏休み明けから天候不順が続き、育ちが悪かったり、葉が枯れたりして実験が少しくましくなかった。
- ヘチマとツルレイシでグリーンカーテンを作ったが、葉の大きな朝顔など、よりグリーンカーテンに適した植物で行うとよかった。

※「3R スリーアール」の冊子は、4年生の社会科「ごみのしよりと利用」の学習にて、新聞づくり等の活動などで活用した。

活動報告（活動写真）

6月



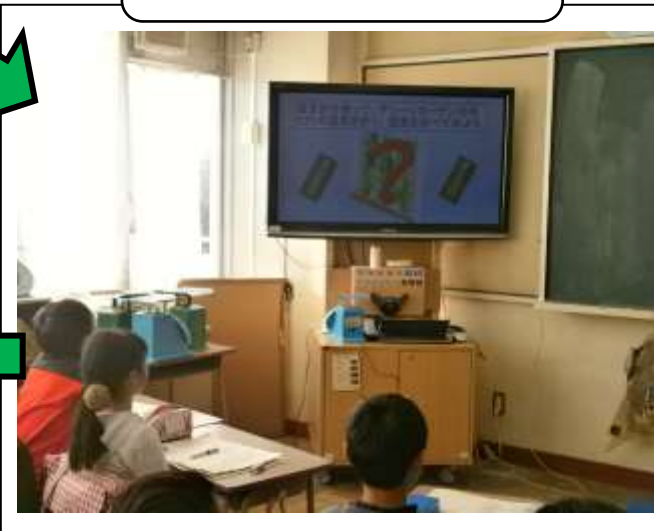
毎日の水やり
夏休みもしっかりやりました。

7月

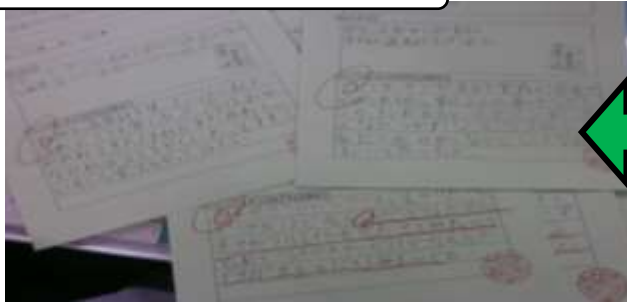


いよいよ実験。温度計の使
い方も学習しました。

8月



学習のまとめができました。



学校名	下鎌田東小学校	対象学年と人数	5学年 89名
活動名	一人一鉢菊作り		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：PTA職員（菊委員の保護者） （役割分担）		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	1.情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 4.授業当日の出張指導 5.学習資料・資材の提供 ⑥.その他（ 全校による菊の栽培 ）		

目標

- ◎一人一鉢の菊作りに全校で取り組み、植物の成長に関心をもたせる。また、命の大切さや自然を大切に
する思いやりの心を育てる。
- ◎5年生が主体となり、活動を進めることで、高学年としての自覚をもたせる。また、6年生への尊敬の
気持ちや下級生を思いやる心を育てる。

成果

- ◎5年生は、中心となって活動することで植物を育てる大変さを知り、また責任感をもって活動する意義
を認識することができた。
- ◎菊を育てるためにPTAの方々にお世話になり、保護者に感謝する気持ちを育むことができた。
- ◎日々の水やりを欠かさず行い、低学年の児童にも自分の菊が咲いたことで、植物の命に向き合い、大切
にしようとする心が育った。

感想・課題等

- ◎今年も台風や強風が何度も菊に危機をもたらしたが、その度に5年生や菊委員の方々が中心となって風
当たりのない場所に移動させるなど、臨機応変な対応によって救われた。とても感謝している。
- ◎12月の感謝の会においては、菊委員さんへ全校児童から手紙を書き、一人一人の感謝の気持ちを伝え
られたことは良かった。

9月 毎日の水やり



10月 輪台付け



11月 菊鑑賞会



学校名	篠崎第五小学校	対象学年と人数	全校	386名
活動名	裏庭を活用した環境教育			
指導者	学内指導者：全教職員 学内支援者：佐々木 文代、小宮 義徳（用務主事） 他 保護者ボランティア			
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	1.情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 4.授業当日の出張指導 5.学習資料・資材の提供 6.その他 (教諭による授業)			

目標

- ・自然豊かな裏庭の水田や畑で栽培活動を行うことにより、自然と触れ合う。
- ・米作りや野菜、花等を種、苗から育てて、世話をし、収穫する活動を通して、生命を慈しみ、大切に育てる心情を養う。
- ・栽培活動が多くの方々の協力によって支えられていることを知り、感謝の気持ちをもつ。

成果

- ・裏庭の自然を活用し。栽培活動を体験することで、自然と触れ合う機会をもつことができた。
- ・さつまいも（2年生）、小松菜（3年生）、ゴーヤ・ヘチマ（4年生）、米（5年生）、ジャガイモ（6年生）を育て、収穫することで、植物が成長する様子を児童自らの手や目で感じ取ることができ、生命の尊さを深く理解することができた。同時に身近な自然環境を大切にしようとする心情を養うことができた。
- ・栽培活動が多くの人々の支えで行われていることを知り、感謝の気持ちをもつことができた。

感想・課題等

〈感想〉

今年度は、保護者ボランティアの協力を多く受け、学年ごとの栽培活動をスムーズに行えた。本校の特色の一つである裏庭を教職員・保護者・地域の方々・児童で大切にしていくことで、今後も自然環境を守っていきこうとする心情を育てていきたい。

〈課題〉

- ・裏庭の田や畑の周囲には、雑草が生えやすく、常に雑草を抜き、より良い栽培活動の環境を維持することが必要だった。
- ・児童の栽培活動をどのように食育に関連付けていくのかが難しかった。
- ・教員と保護者ボランティアの方との打ち合わせ時間の確保。

活動報告（活動写真）

学校名

篠崎第五小学校



保護者ボランティアの活動



ミニトマトの栽培（2年生）



へちまの収穫（4年）



稲刈り（5年）

学校名	江戸川区立南篠崎小学校	対象学年と人数	全児童 572名
活動名	笑顔いっぱい 緑いっぱい 南篠崎小学校		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：ハッピー・グリーン（学校応援団） （役割分担）		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	①情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 4.授業当日の出張指導 5.学習資料・資材の提供 ⑥その他（教諭による授業）		

目標

- 学校農園、学年花壇、田を計画的に活用した体験的な活動を通して、生命尊重と食物を大切に育てる。
- 学校農園を使った、小松菜の栽培活動（3年生）、小麦の収穫、うどん作り（2年生）、サツマイモの収穫、サツマイモのつるを使ったリース作り（1年生）などの自然体験学習を多く行う中で、豊かな心情を育てる。

成果

- 1年生は、学校農園で育ててきたサツマイモの収穫体験をした。収穫したサツマイモでイモきんとんのお菓子を作り、収穫の時に出土つるを使ってクリスマスリースづくりをした。本来であれば廃棄するつるも教材にすることができた。
- 2年生は、収穫した小麦の脱穀を児童が行い、製粉した小麦粉でうどん作りを行った。さらに麦わらを使った「ヒンメリ」を作った。
- 3年生は、社会科の学習の「江戸川区の特色 小松菜」で、小島農園（小松菜を作っている農家）の方から教えて頂いた方法で、学校農園に小松菜を植えた。
- グリーンカーテン（4か所）の実施

感想・課題等

- グリーンプランの予算で、グリーンカーテンを育て、エコな環境づくりを推進することができた。今回は、ヘチマ・ゴーヤ・アサガオのグリーンカーテンを校舎側に4か所設置した。グリーンカーテンは順調に成長し、きれいな花や大きな実ができた。実は乾燥させ、理科の教材として活用した。
- 全学年で多様な栽培活動を行った。低学年は、生活科だけでなく図工や食育、環境教育の領域と関連付け、横断的な取り組みを行うことができた。グリーンプランに関わる活動は、本校の教育活動の特色となった。

1年生（サツマイモ）

生活科（栽培・収穫）→図工（クリスマスリース作り）→食育（イモきんとん）

2年生（小麦）

生活科（栽培・収穫・脱穀）→図工（麦わらで作製したヒンメリ）→食育（うどん作り）

3年生（小松菜）

社会科（小松菜について）→総合的な学習の時間・食育（小松菜の栽培）

1年生



収穫体験
（生活科）



リース作り（図工）



イモきんとん
（食育）

収穫の際には本校の畑ボランティア、イモきんとん作りでは保護者の方の協力もあり、子供たちは楽しく活動することができました。子供たちの感想から、「お家でもまた作ってみたい。」「つるからクリスマスリースができると思わなかった」などの感想がありました。

2年生



うどん作り（食育）



麦わらを使った、
フィンランドが発祥のヒンメリ（図工）

麦わらの中に糸を通してできる「ヒンメリ」を展覧会に向けて制作しました。麦を育て、収穫し、うどんにして食べるだけでなく、オリジナルの「ヒンメリ」作りにも挑戦しました。一つの教科・領域だけではなく、横断的な学習を進めることができました。



グリーンカーテンの成功!!!

夏に大きな実ができたヘチマは、中身を乾燥させ、中学年の理科の教材に変身を遂げます!!!



学校名	江戸川区立上一色小学校	対象学年と人数	全学年 87名
活動名	笑顔いっぱい 夢いっぱい		
指導者	学内指導者： 副校長（涉外）、上月 達也（校内代表）、全教職員 学外支援者： 高橋 廣（河川敷活用委員会代表）、秋元 勝明（学校応援団代表） 石川 武敬（新中川環境を良くする会会長）、業者ほか		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	1.情報の収集 ②データベース登録者に相談 ③データベース登録者から技術指導 ④授業当日の出張指導 5.学習資料・資材の提供 ⑥その他（ 教諭による授業 ）		

目標

- 1 理科・生活科・総合的な学習の時間の学習園や観察池として、河川敷を整備し児童の教育活動を行う。（今年度が最終年）
- 2 校内研究（人権教育）とタイアップして、自分・友達・ものを大切に作る心を育てる。
- 3 学校・保護者・地域が連携して、児童を通しての親睦を図る。

成果

- 1 平成13年から続いた新中川河川敷学習園だが、河川敷護岸工事が始まるため、この8月をもって閉園となった。7月16日には、今までの感謝を込めた【ありがとう さようなら 河川敷閉園式】を行い、発案者である第12代校長中村圓先生はじめ歴代の各町会会長や学校応援団ボランティア・新中川河川敷環境をよくする会の皆様に、児童から感謝の言葉を贈った（今年度の護岸工事後は中止だが、いずれ芝生の広場となって児童・地域のお花見・散歩コース・夕涼みなど憩いの場となる予定）。
- 2 グリーンプランの予算で耕運機や草刈り機を整備し、花の種や肥料を購入した。校内学校園では『人権の花』を季節ごとに植え替える行動を通して、偏見や差別のない優しい心の育成を目指した。
- 3 最後となった今年の河川敷学習園だが、春は菜の花・キンセンカ、夏にはランタナ・マーガレット・ヒマワリ・百日草、そして昨年秋のコスモスなどが花を咲かせた。ボランティアの皆様には、種を蒔く深さや間隔・水やり、学校園でのサツマイモ収穫など今までと同じようにお世話になった。

感想・課題等

- 1 河川敷学習園は閉園したが、今後も校内学習園での理科生活科の活動を見直し、ボランティアとの連携を図っていく。
- 2 『人権の花』を通して、命を大切に考える機会に触れられた。今後も活動を広げたい。
- 3 ボランティアの高齢化に伴い、指導技術や植物の基礎知識など、教職員が情報を共有し実践できるように校内体制を整備・確立していく。

① 最後の河川敷学習園



② 校内研（人権教育）『人権の花』



③ 保護者や地域の方々との交流



平成27年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	江戸川区立中小岩小学校	対象学年と人数	全学年 375名
活動名	中小岩小の環境学習		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：えどがわエコセンター、江戸川区子ども未来館、 (株)キャノンマーケティングジャパン		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	①情報の収集 ②データベース登録者に相談 ③データベース登録者から技術指導 ④授業当日の出張指導 ⑤学習資料・資材の提供 ⑥その他(教諭による授業)		

目標

- 学校における環境保全活動の推進
- 児童・家庭・地域の環境保全活動への理解の推進(全学年における環境学習の実施)

成果

☆環境教育プログラム(えどがわエコセンター、江戸川区子ども未来館)

- 1年生「ゼッタイ!!エコガイダー」 2年生「E☆カプセル」
- 3年生「身近な生き物にふれてみよう」 4年生「3Rって何だろう？」
- 5年生「食べ物から環境を知ろう」 6年生「地球の環境問題って何だろう？」

☆環境出前授業(キャノンマーケティングジャパン)

4年生「モノのとくちょうを利用してリサイクル～理科は地球を救う～」

- ☆環境委員会による、年間を通じた、井戸水利用、省エネの呼びかけ等、環境保全活動
- ☆全児童による、節電、節水、雨水ダムを使った花の水やり等の省エネによる環境保全活動
- ☆教職員、PTAによる、花植え、壁面緑化等の環境保全活動
- ☆こどもエコクラブへの登録 ☆江戸川区広報番組「えどがわエコセンター」への出演

◎えどがわエコセンターの方々等の全面的な協力の下、各学年の実態に応じて環境問題についての理解を深め、自分たちが日常生活の中で実践できることを学び、行動への意欲を高めることができた。

◎学校において取り組んでいるエコ活動の意義を再確認でき、日々の活動への意欲を高めることができた。

◎保護者にも、学校での取り組みを知らせ、家庭での環境保全活動への理解を深めることができた。

感想・課題等

- ◎えどがわエコセンターをはじめ、多くの方々の協力を得ることができ、学年の実態に応じて子どもたちが楽しみながら環境問題に触れ、学ぶことができた。
- ◎今年だけに終わることなく、次年度以降も引き続き「エコの学校」として、環境学習を工夫して進めていくとともに、環境保全活動も継続して実践していきたい。

各学年における環境学習



1年生「ゼッタイ!!エコガイダー」



2年生「E☆カプセル」



3年生「身近な生き物にふれてみよう」



4年生「モノのとくちょうを利用してリサイクル」



5年生「食べ物から環境を知ろう」



6年生「地球の環境問題って何だろう？」

学校名	江戸川区立上一色中学校	対象学年と人数	生徒会及びボランティア
活動名	「新しいことが発見でき、喜びが味わえ、通いたくなる学校」		
指導者	学内指導者：大越龍二教諭 松尾陽介教諭 三村薫教諭 岡本正一用務主事 学外支援者：菅原一之（学校応援団コーディネーター） 他学校応援団の皆様 （役割分担）		
環境学習 データベース (当てはまるものに○)	1.情報の収集 2.データベース登録者に相談 3.データベース登録者から技術指導 4.授業当日の出張指導 5.学習資料・資材の提供 6.その他（教諭による授業）		

目標

生徒一人一人にとって「新しいことが発見でき、喜びが味わえ、通いたくなる学校」
「花いっぱい運動」

成果

ナス・トマト・キュウリの夏野菜の栽培は、収穫までおこないません。植物でなく野菜を育てるということで大変興味深くおこなっていました。新しい試みとしてのアクアポニックスですが、魚と植物の排出と・吸収のバランスはどうか保ってきました。今現在では、植生の勢いが十分でないところがあり、よりよいそのバランスを追求しています。

感想・課題等

アクアポニックスという魚と植物の循環型生態系に取り組みました。それは、別々の水槽でお互いに水を循環させながら、魚の飼育と野菜栽培を同時におこないます。このアクアポニックスは英語の文献は多くありますが、日本語の文献がないので、運用には、様々な条件をあてはめて野菜が繁茂するかどうか観察しています。まだ立ち上げてから半年未満であり、システムも自作であるために、この循環型生態系を持続・改善していくために、現在取り組んでおります。まずは、生き物であるため継続が大切であると感じています。

そして、1月に出前授業をおこなう際には、お手数ですがよろしくお願いいたします。

学校名

上一色中学校

活動報告（活動写真）



ナス・トマト・キュウリを植えています



正面玄関：ポーチユラカ



正面玄関：ストック・ビオラ



チューリップ



アクアポニックス：全体



上段と下段の様子

特定非営利活動法人 エドがわエコセンター

〒134-0091 東京都江戸川区船堀4-1-1 タワーホール船堀3階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

E-mail: edogawa-ecocenter@bz01.plala.or.jp

<http://www.edogawa-ecocenter.jp/>